

幸福度指標設定の考え方

1 指標化の目的

社会状況や行政活動の成果などを他と比較可能な形で表される指標を活用して、施策の効果等を多面的に測定・点検し、行政運営の検証を行うことで、市民総幸福の最大化を推進します。

2 指標の設定の視点

市民幸せ度アンケートでの質問分野の体系を基本とします。

個別指標は、施策のマネジメントにむけ、出来る限り経年の変化が測定でき全国との比較が可能なものを採用します。

社会状況を表す統計データ（客観的なもの）と、幸福に関する市民の意識調査（主観的なもの）により得たものを使用します。

3 指標の構成

幸福度指標は、6つの分野（及び行政運営）と個人の幸福感で構成します。

（指標は、幸福度指標案体系図に示します。）

4 指標項目の種別

（1）客観的なもの（統計データ）

指標ごとの項目において、幸福の観点について客観的に検証するものです。

統計データは、全国比較が可能ものを採用します。

適当な統計データがないものについては、市の特色を表わすものを採用します。

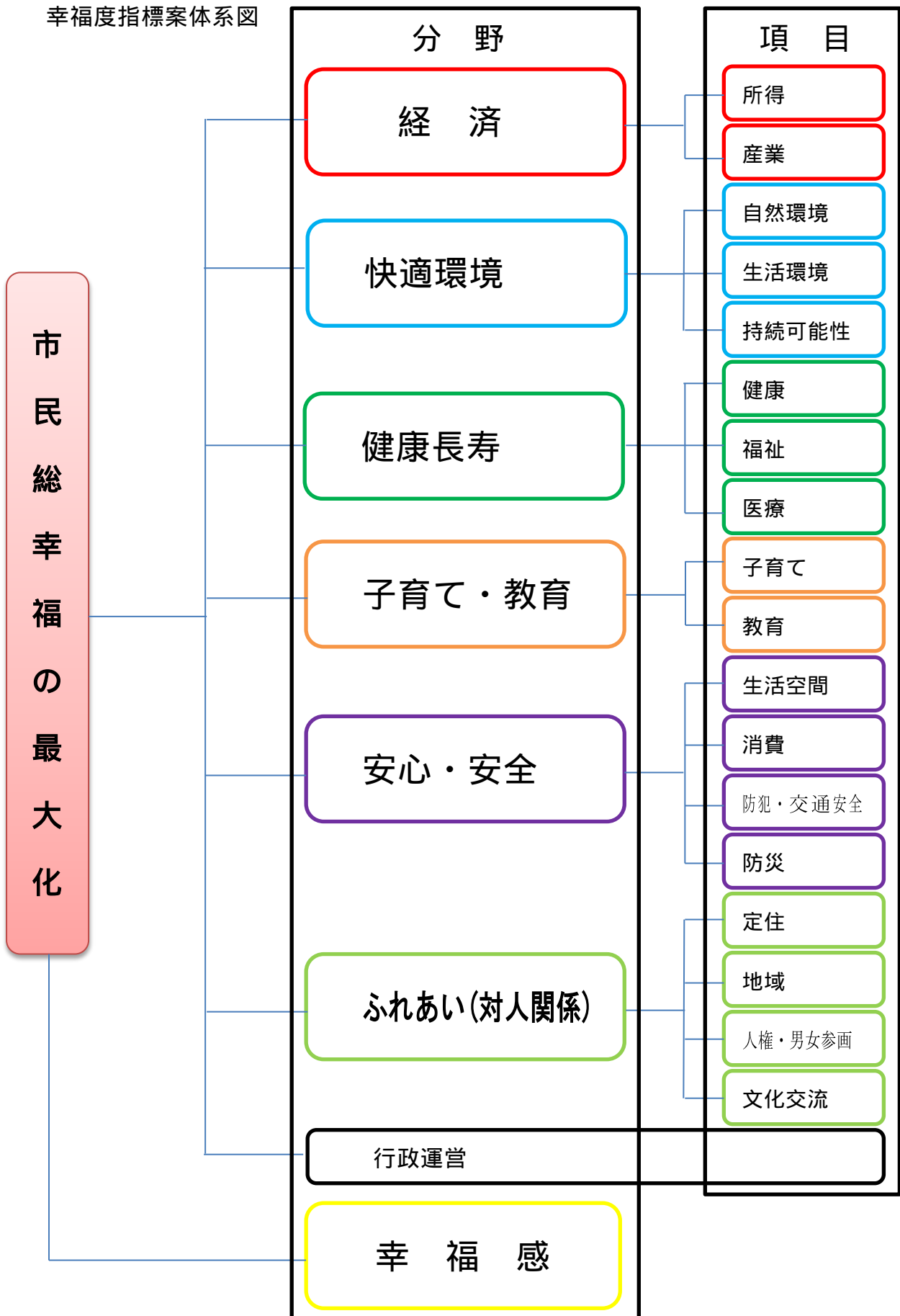
（2）主観的なもの（市民意識調査）

市民の幸福感などを大枠で捉える役割を担い、どのような項目に幸福の要因があるのかなどの分析することに利用します。

アンケートにより市民の幸福実感などを調査します。

アンケートは毎年度実施します。

幸福度指標案体系図



指標数値の把握方法

統計等のデータ

各種統計の結果発表の
都度数値を更新する

市民の意識調査

毎年アンケート調査を実
施しその結果を更新する

